



開設70周年記念 大楠賞争奪戦 GIII  
4/23(Thu) 24(Fri) 25(Sat) 26(Sun)



力戦奮闘にくりげ。



松浦悠士

# 充実ぶり際立つ松浦悠

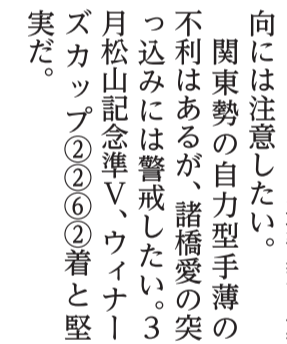
武雄競輪場開設70周年記念「大楠賞争奪戦」は、4月23日〜26日の日程で開催されるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客で行われる。今シリーズは松浦悠士、郡司浩平、村上博幸、中川誠一郎のS班4名をはじめとして、宮本隼輔、山崎賢人、高橋晋也ら、バンク狭しと暴れまわる若手自力型が参戦する豪華メンバー。地元勢は山田兄弟(英明、庸平)らが一丸となって強豪を迎え撃つ。また、最終日第6レースにおいてS級ブロックセブンが一発勝負で行われる。こちらも注目だ。

月高松記念を連覇と最高のスタートダッシュを決めると、全日本選抜の決勝は積極果敢に先行して清水裕のG1初Vに大きく貢献した。この決勝で落車し2月奈良記念を欠場したが、3月松山記念①③①③着、ウィナーズカップ⑥①①着と落車の後遺症はまったく見られない。ウィナーズカップは清水の逃げに乗り、G2大会初Vを達成した。今年G1レースばかり5場所参戦してオール優等、3Vの成績は申し分ない。松浦には宮本



郡司浩平

隼輔の存在も心強い。調子を落としていた時期もあった宮本だが、現在は好調時のような力強さを取り戻している。2月松山で今年初Vを飾ると、同月奈良記念は3連勝で優等。ウィナーズカップの二次予選は逃げて2着に粘り、差した松浦とワンツーを決めている。宮本の仕掛けに乗る展開なら松浦の優位は更に拡大する。スピードの切れ味なら郡司浩平も引けを取らない。全日本選抜②②①⑤着、ウィナーズカップ①①①⑤①着とビッグレースの連対率は抜群だし、G3では3月玉野記念で優勝している。昨年の勝率は33%だったのに対し、今年3月末までで47%と大幅にアップしているのはスピードに磨きがかかった証しだろう。同県の松坂洋平も地力強化を感じさせる走りを見せつけている。2月小倉G3をはじめ今年早くも2V、ウィナーズカップの毘沙門天賞は郡司のまくりが続いて2着。郡司が好位置キープから自力を出せれば神奈川ワンツーは十分だ。



山田英明

今年はまだ優勝には手が届いていない村上博幸だが、相変わらず大崩れは少ない。野原雅也が2月玉野でV、ウィナーズカップ①④②④着など調子を上げてきているので、近畿勢の動向には注意したい。関東勢の自力型手薄の不利はあるが、諸橋愛の突っ込みには警戒したい。3月松山記念準V、ウィナーズカップ②②⑥②着と堅実だ。



山田英明

Table with columns for rider names (山田英明, 宮本隼輔, 諸橋愛, 小松崎大地, 山崎芳仁, 中川誠一郎, 松浦悠士, 村上博幸, 郡司浩平), race dates, and performance statistics.

Table titled '武雄記念 出場予定選手' (Buxu Memorial Race Scheduled Riders) with columns for rider names, registration numbers, race dates, and performance statistics.

※2020年4月14日現在のデータです。